



生徒安全体育	基本的な生活習慣の確立	・服装頭髪検査の実施と指導の徹底	4: 服装頭髪指導が十分行われ、効果が上がった。 3: 服装頭髪指導が行われ、概ね効果が上がった。 2: 服装頭髪指導が十分に行われず、あまり効果が上がらなかった。 1: 服装頭髪指導がほとんど行われず、効果が上がらなかった。	4	・年間10回の服装頭髪検査を行い、改善がみられない生徒については再指導を行った。さらに今年度は違反の多い生徒には改善書の発行や保護者を含めた指導を行い徹底を図った。また、各学年と協力しネクタイ・リボンの常用を進め、生徒により制服の着方・身だしなみの大切さを指導した。	・生徒の服装が良くなってきている。また、生徒が挨拶をよくするようになったと感じている。自転車の乗り方で、マナーの悪い生徒を見かけることがあったので、注意したことがあった。今後も交通安全指導にさらに留意してほしい。 ・文化祭の後片付けの様子を見たが、生徒は協力してよくやっていた。また、翌日に行われた同窓会の翌日の後片付けにも自ら進んで手伝う生徒の姿に感心した。	B
		・登校時の立番指導実施	4: 登校時の立番により、挨拶等マナーの向上が十分達成された。 3: 登校時の立番により、挨拶等マナーの向上が概ね達成された。 2: 登校時の立番により、挨拶等マナーの向上があまり達成されなかった。 1: 登校時の立番が十分に行われなかった。	3	・各学期に1回の登校指導週間を設けた。生徒安全体育課の教員と各クラスの室長・副室長で挨拶・服装・マナー指導を行った。挨拶・服装については学期を追うごとに良くなった。登校時のマナーについては校門では良好であった。		
		・清掃活動、教室の整理整頓、ゴミの適正な処理の徹底	4: 清掃活動、教室の整理整頓、ゴミの適正な処理が徹底された。 3: 清掃活動、教室の整理整頓、ゴミの適正な処理がほぼなされた。 2: 清掃活動、教室の整理整頓、ゴミの適正な処理があまりなされなかった。 1: 清掃活動、教室の整理整頓、ゴミの適正な処理が不十分であった。	3	・教室や廊下等校内でのゴミや整理整頓は昨年と比べかなり改善された。 ・行事の際、外部の方から清掃が行き届いていない場所があることを指摘された。通常の掃除では担当教員と生徒が責任を持って行っているが、文化祭などの行事の際は人が不足がちで特別な掃除割当等を考えていく必要がある。		
		・健康状態の把握と健康維持・増進へのサポート	4: 健康状態の把握と健康維持・増進へのサポートが徹底された。 3: 健康状態の把握と健康維持・増進へのサポートがほぼなされた。 2: 健康状態の把握と健康維持・増進へのサポートがあまりなされなかった。 1: 健康状態の把握と健康維持・増進へのサポートが不十分であった。	4	・保健室を中心に健康状態の把握が年間を通して徹底され学校全体やホームルームでの健康管理、個々の生徒に対するサポートがしっかりできた。特に、学校行事前の健康相談による管理・対処がきめ細かく行われた。		
		・自転車点検の実施	4: 自転車点検を適切に実施し、自転車の整備が徹底された。 3: 自転車点検を実施し、自転車の整備がほぼなされた。 2: 自転車点検がやや不十分であったため、自転車の整備があまり進まなかった。 1: 自転車点検が不十分であったため、自転車の整備ができていなかった。	4	・自転車点検を実施し整備不良や安全に問題のある自転車もなく整備が徹底されている。自転車乗車のマナーや自転車置き場の使用も良好で問題ない。		
自立心を育て、社会的に自己実現ができるような資質・態度の育成	・交通安全と犯罪被害を防ぐための知識と態度の育成する学習会の実施	4: 交通安全と犯罪被害を防ぐための知識と態度が十分に高揚した。 3: 交通安全と犯罪被害を防ぐための知識と態度が概ね高揚した。 2: 交通安全と犯罪被害を防ぐための知識と態度があまり高揚しなかった。 1: 交通安全と犯罪被害を防ぐための知識と態度がほとんど高揚しなかった。	4	・夏休み前に危機回避教室を行い、危険予知と安全な行動について指導した。生徒が事故や犯罪に巻き込まれることなく安全に行動できている。 ・交通安全に担当教員により本校生徒の実態に即した内容で交通安全教室を実施した。また、原付通学者のためのサマースクールも実施し安全な運転の仕方について徹底した。	・生徒数が少ないことをメリットと捉え、一人ひとりを大切にしたい行事や部活動は評価できる。 ・少ない生徒数の中、体育的・学校行事や部活動にしっかりと取り組んでいる男子がボランティアを積極的にやっている姿をよく見かける。とても感じがよい。生徒のボランティア活動をさらに積極的に推進して欲しい。	B	
		・日常の指導と校内外の巡視指導の実施	4: 日常の指導と校内外の巡視によりマナーの向上が十分達成された。 3: 日常の指導と校内外の巡視によりマナーの向上が概ね達成された。 2: 日常の指導と校内外の巡視によりマナーの向上があまり達成されなかった。 1: 日常の指導と校内外の巡視が十分に行われなかった。	3			・今年度は、生徒安全体育課の教員で昼休みや、放課後の巡視を定期・不定期に実施し指導した。前半については、1年生を中心にマナーの悪さが目立ち指導に時間を要した。学期が進むにつれて改善され、マナーの向上が見られた。
		・学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動の充実	4: 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動が充実していた。 3: 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動が概ね充実していた。 2: 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等があまり行われなかった。 1: 学校行事、生徒会活動、部活動、ボランティア活動等がほとんど行われなかった。	3			・生徒数が少なく、リーダーとなる生徒がすべての活動で重複するためかなりの負担を一部生徒にかけるようになるが、概ね活動できた。
・生徒とのコミュニケーション能力向上を図るため、教師の人的魅力を活かした積極的なコンタクトを推進	4: コンタクト推進が適切に行われ、コミュニケーション能力の向上が十分図られた。 3: コンタクト推進がほぼ適切であったため、コミュニケーション能力向上が図られた。 2: コンタクト推進が不十分であったため、コミュニケーション能力向上もあまり図られなかった。 1: コンタクトを推進できず、コミュニケーション能力向上が図られなかった。	3	・生徒と教師の関係が近く、様々な学校生活の場面で随所に生徒が教師を信頼し様々な相談や授業以外での指導を受け、よいコミュニケーションがとれている。この関係をさらに発展して生徒のコミュニケーション能力を高めることができるようにしたい。				

進 路 指 導	・課外学習・模擬試験の推進	4: 多面的な課外や模擬試験等が十分に実施された。 3: 多面的な課外や模擬試験等が概ね実施された。 2: 多面的な課外や模擬試験等があまり実施されなかった。 1: 多面的な課外や模擬試験等がほとんど実施されなかった。	3	・看護医療系や小論文、公務員模試等の生徒の実態に応じた進学・就職模試を実施した。生徒に案内した模試回数 昨年度28回 今年度30回 ・少数ではあるが、自分の進路に応じた模試を受験した。受験生徒数29名(1月末) ・課外の受講生徒数は、今年度延181名で昨年度よりも少なくなり、学力向上のため来年度は積極的に呼びかけていきたい。	・本年度3年生の進路状況から、生徒は進学・就職によく頑張っている。それを、学校がよく支えている。 ・進路便りが効果的に発行されていると思う。	A	
	・生徒一人ひとりが自分の目標に向かって主体的に学ぶ態度と能力の育成	・個々に応じた進路相談の充実	4: 個々に応じた進路相談が十分行われた。 3: 個々に応じた進路相談が概ね行われた。 2: 個々に応じた進路相談があまり行われなかった。 1: 個々に応じた進路相談がほとんど行われなかった。	3			・3学年は全員、個人面談を行い、希望の変更や不合格の場合はその都度、面談を実施した。2年生進路希望調査実施後、進路指導室にきて自分の進路選択について相談に来る生徒が増えた。1年生は1学期に相談希望カードを配付したが、相談に来る生徒は少なかったため、こちらからの働きかけが必要である。
	・進路実現のための適切な情報提供	4: 進路だよりが計画的に発行され、進路に関する情報が十分提供された。 3: 進路だよりが発行され、進路に関する情報も概ね提供された。 2: 進路だよりがあまり発行されず、進路に関する情報も十分提供されなかった。 1: 進路だよりがほとんど発行されず進路に関する情報もほとんど提供されなかった。	4	・ほぼ月1回発行、1月現在で10回発行し、就職状況や進学状況、卒業生の体験談、進路関係行事等の情報提供を行った。 ・進路情報提供に対する生徒の満足度が昨年度の同じ時期より増加した。 進学関係: 83.8% 87.0% 就職関係: 84.8% 88.0% ・進路情報提供に対する保護者の満足度も昨年度の同時期に比べて大幅に増加した。 進学関係: 63.2% 86.6% 就職関係: 65.0% 83.6% ・進路のしおりを7年ぶりに発行した。			
・体験的な活動を通じての社会人としての資質の育成	・総合的な学習の時間の活用による進路学習の充実	4: 総合的な学習の時間の活用による進路学習が充実し、社会人としての資質も十分に育成された。 3: 総合的な学習の時間の活用による進路学習が概ね充実された。 2: 総合的な学習の時間の活用による進路学習があまり充実せず、社会人としての資質も十分育成されなかった。 1: 総合的な学習の時間の活用による進路学習がほとんど充実せず、社会人としての資質も育成されなかった。	4	・総合的な学習の時間を活用し、進路指導課が企画・運営を担当することで、学年と連携しながら計画的にきめ細かく進路学習を実施することができた。	・体験的な活動を通じての計画的なキャリア教育が確実に浸透している。そして、その成果が生徒の取組や進路状況に表れている。	A	
	・進路説明会・就職ガイダンス・職場体験等の充実	4: 進路説明会・就職ガイダンス・職場体験等が充実し、社会人としての資質も十分に育成された。 3: 進路説明会・就職ガイダンス・職場体験等が概ね充実し、社会人としての資質も育成された。 2: 進路説明会・就職ガイダンス・職場体験等があまり充実せず、社会人としての資質も十分育成されなかった。 1: 進路説明会・就職ガイダンス・職場体験等がほとんど充実せず、社会人としての資質も育成されなかった。	4	・6月に全学年対象の社会人講話、7月、8月に3年生対象の就職支援セミナー、10月に1年対象のライフプランニング講座、11月に2年対象の就職支援セミナーを実施した。生徒も大変意欲的に取り組み、社会人として身につけるべき基本を体得することができた。 ・職場体験は、1年間を通した事前事後指導を行い、事前、事後発表会を実施した結果、職業観、勤労観を養うことができた。また、3年間連続で無欠席で2学年全員が体験することができた。			
全教職員による相談体制の確立	・生徒指導・教育相談委員会等、必要に応じた情報交換の実施	4: 時宜を得た情報交換により、生徒への理解が十分深まった。 3: 時宜を得た情報交換により、生徒への理解が概ね深まった。 2: 情報交換があまり行われず、生徒への理解も十分にできなかった。 1: 情報交換がほとんど実施されなかった。	4	・生徒指導・教育相談委員会を定期的に開催し、情報交換を行った。 ・事例検討会では個別の生徒に対する今後の指導方針等を話し合い、職員会議で報告し、情報共有を図った。	・様々な課題や事情を抱えた生徒がいる中、良い体制ができており、高く評価したい。	A	
	・実態把握に努めるため、生徒に対して年2回の面談週間、年5回のアンケートを実施	4: 面談週間やアンケートを実施した結果実態把握が十分できた。 3: 面談週間やアンケートを実施した結果、実態把握が概ねできた。 2: 面談週間やアンケートがあまり行われず、実態把握も十分にできなかった。 1: 面談週間やアンケートがほとんど実施されなかった。	4	・生活全般に関するアンケートを各学期当初に実施し、集計の結果から全体の傾向を分析した。また必要な場合は個別対応も行った。 ・1年生は1学期に心理検査を実施した。教職員は専門家から検査結果の見方を研修して、事後の対応に生かした。 ・いじめに関するアンケートを2回実施し、全教職員で実態を把握した。			
	・保護者に『たより』を発行、相談アンケートの実施	4: 『たより』や相談アンケートを実施した結果実態把握が十分できた。 3: 『たより』や相談アンケートを実施した結果、実態把握が概ねできた。 2: 『たより』や相談アンケートがあまり行われず、実態把握も十分にできなかった。 1: 『たより』や相談アンケートがほとんど実施されなかった。	3	・保護者向け『たより』を2回発行した。 また、『佐波高校ブログ』やPTA総会等で教育相談課の取り組みや活動内容について情報発信した。 ・保護者対象アンケートを実施し、家庭での様子や悩み等の実態把握に努めた。 ・来年度は、『たより』の発行回数を増やして、さらに保護者との連携を図りたい。			

教 育 相 談	・スクールカウンセラー及び外部専門機関等の効果的な活用	・よりよい生徒理解への支援を図るため、校内研修会を実施	4: 校内研修会を適切に実施した結果教員のよりよい生徒理解が進んだ。 3: 校内研修会を実施した結果、教員のよりよい生徒理解が概ねなされた。 2: 校内研修会を実施したが、教員のよりよい生徒理解はあまり進まなかった。 1: 校内研修会が不十分であったため、教員のよりよい生徒理解が進まなかった。	4	・校内研修会を4回実施した。 ・スクールカウンセラーによる研修会を開催し、司法に関わる専門的な講義を受けた。 ・スクールカウンセラーとの情報共有のため、該当クラスの担任・関係教員・教育相談担当で情報交換する時間を設けた。	様々な課題や事情をかかえた生徒がいる中、良い体制ができており、高く評価したい。	A
		・外部専門機関との連携による、きめ細かな支援体制の整備	4: 外部専門機関等を効果的に活用した。 3: 外部専門機関等を概ね効果的に活用した。 2: 外部専門機関等をあまり活用することができなかった。 1: 外部専門機関等をほとんど活用することができなかった。	4	・特別な支援が必要な生徒に対しては、外部の専門機関との連携により、生徒の指導に当たった。 ・特別な支援を必要とする生徒の保護者と個別面談を実施し、外部機関へ繋げるための支援を行った。		
	・人権意識の確立と人権を守る態度の育成	・年間計画に沿った人権教育の実施	4: 年間計画に沿って、人権教育を実施し、人権意識の確立などの成果が見られた。 3: 年間計画に沿って、人権教育を実施し、概ね成果が見られた。 2: 年間計画にほぼ沿って、人権教育を実施したが、あまり成果がみられなかった。 1: 年間計画に沿って、人権教育を実施できなかった。	3	・各教科やHR等で年間計画に沿って、人権教育を実施した。 ・生徒と保護者向けに、外部講師を招いて人権教育講演会を実施した。また事後指導を兼ねて「人権教育だより」を発行し、意識向上に努めた。	・生徒が互いの立場を考えながら活動していくように配慮されている。	B
		・教職員の意識高揚のための研修の実施	4: 教職員の研修を実施したため、教職員の意識の高揚が見られ、授業に活用できた。 3: 教職員の研修を実施したため、教職員の意識の高揚が見られた。 2: 教職員の研修は実施したが、職員意識の高揚はあまり見られなかった。 1: 教職員の研修が実施されなかった。	3	・教職員研修として、外部講師を招いて人権教育講演会を実施した。 ・「子どもの人権を尊重する教職員チェックポイント」の点検用紙を個別に配布し実施した。		
業 務 改 善	学校の組織等	・学年・分掌を超えて、支援・協力できる体制の確立	4: 他学年・他分掌の業務内容の共有が充分できて、積極的に支援・協力をすることができた。 3: 他学年・他分掌の業務内容の共有が概ねできて、支援・協力をすることができた。 2: 他学年・他分掌の業務内容の共有は難しかったが、要請に応じて支援・協力をすることができた。 1: 他学年・他分掌の業務内容の共有がほとんどできなかった。	3	・概ねできている。特に、キャリア教育における進路面談や職場体験、面接指導などでは学年や分掌を越えた協力体制が構築され、業務が円滑に行えた。	キャリア教育では成果を上げており、連携体制が確立されていることがうかがえる。教員数の制限のある中で業務の均等化を行うのはなかなか難しいと思うが、ぜひ改善して欲しい。	C
	教職員の連携協働体制の確立		4: 周知な事前準備と計画により、効果的に実施することができた。 3: 事前準備と計画により概ね効果的に実施することができた。 2: 事前準備と計画が十分でなく、あまり効果的に実施できなかった。 1: 事前準備と計画が不十分で、ほとんど効果的に実施できなかった。	3	・研修については、計画に基づき円滑に行っている。時期を見た臨時的な研修会も開催することができた。 ・会議については、会議の精選を検討する意見や周到な事前準備を求める意見があった。		
	日常的な業務	・事前準備を充実させ、年間を通しての計画的な会議や研修の実施	4: 業務量の均等化が適切に図られた。 3: 業務量の均等化が概ね適切に図られた。 2: 業務量の均等化があまり図られなかった。 1: 業務量の均等化がほとんど図られなかった。	2	・円滑に業務は進行しているが、担当業務の偏りが生じ、一部の教員への負担が増大しているという意見がある。 ・時期的な偏りを考え、年間を通じた業務量の均等化を求める意見もあった。		
	会議や研修の効果的な実施		4: 業務量の均等化を図り、一部の教員に仕事が偏らないような組織づくりの推進	2			
	勤務状況						
各分掌での仕事分担の見直し							

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

<前年度からの課題について>

「特色ある学校づくり・魅力ある学校づくりを推進し、満足度100%の学校づくりをめざす。」については、今年度卒業生とその保護者から、「佐波高校に入学して良かったか。自分の進路に満足しているか」の問いに、保護者は100%、卒業生は約94%の「良かった。満足している」との回答を得た。この数字は、昨年度の結果よりも少し向上しており、本校にとっては評価できる数字と受け取っている。

「個性豊かな生徒に対し、全教職員が連携協働し、きめ細やかな指導を推進」については、生徒指導・教育相談連絡会議を毎月開催した。また、指導を要する生徒については、個別にケース会議を開くなど、全教職員が連携し、効果的に指導できた。また、特別に支援の必要な生徒には「個別的教育支援計画」を作成し、長期目標と短期目標を設定し、その支援に努めた。この支援により、生徒の状況が改善されつつある。

「3年間を見通した計画的な進路指導、特に個人データの継承方法等効果的な進路指導の推進」については、3学年の担任や進路指導課を中心に全教職員で取り組み、卒業生34名全員の進路を決定し、卒業させることができた。このことは、大いに指導効果があったと評価している。個人データの継承方法等については、進路面談記録や各種模試のデータの継承や活用について実施しているところであり、今後もさらに研究し効果的に実施したい。また、本年度は1年生で「ライフプランセミナー」を実施し、生徒一人ひとりのライフプランから見た進路指導にも取り組んだ。

「本校のキャリア教育の中核となる「職場体験学習」等の検討・改善」については、社会人として生活する上で、より効果的な職場体験学習を目指し、実習のみならず、事前・事後指導の在り方にも研究・改善に努め、効果的な実習ができた。2年生の「職場体験学習」の事前・事後発表会に良い刺激を受けたという1年生も多い。

「和やかな雰囲気のもと、教職員が生き生きと連携協働できる職場づくりの確立」については、円滑に業務は進行しているが、担当業務の偏りが生じ、一部の教員への負担が増大しているという意見があり、年度末に校務分掌の業務分担の見直しを図るために「教職員の業務の均等化・平等化を図るための検討委員会」の会議を開催し、次年度に向けた改善に努めた。

<今年度の重点目標の達成度について>(上記と重複しない部分について述べる。)

「生徒一人ひとりの自己教育力の育成：生徒チャレンジ目標の達成とともに、個々のコミュニケーション能力の育成」については、チャレンジ目標を「時間厳守、あいさつの励行、服装を整える」の3つとし、徹底を図るとともに、学校の様々な場面での生徒のコミュニケーション活動の推進を図った。チャレンジ目標の生徒自己評価アンケートの結果、それぞれの目標について9割の者ができたと回答をしており、外部の評価も良くなってきた。しかし、服装については、一部の生徒にまだルーズな者もいるとも指摘された。今後、より徹底した指導に励みたい。

「『生徒の夢の実現』を第一に考えた教師集団づくり：研修や授業改善を通して教職員の資質の向上を図るとともに、連携協働体制の確立に努める」については、校内外の研修の積極的な推進と授業研究を奨励するとともに、各分掌・学年間の連携を推進した。また、中学校での生徒の学習状況や指導方法を学ぶために、教員全員が徳地中などの近隣の中学校の授業を参観し研修した。今後も教師力のUPにつながる方策を進めていきたい。

「『顔』が見える、開かれた学校づくりの推進：学校HPの充実や学校行事等の積極的開放を図るとともに、保護者並びに地域や中学校との連携を強化する」についてはHPのブログの更新を活発に行い(3月15日現在46回更新)、情報発信に努めるとともに、文化祭をはじめとする学校行事におけるPTAとの連携を強化した。また、生徒が地域の行事等に参加したり、ボランティア等地元での活動も多く、地域に貢献することも奨励し、多くの生徒が参加した。さらに、今年度から、徳地地域の小中高PTA連絡協議会を立ち上げ、地域のPTAが連携し、共に地域のこどもを育てていこうという機運が高まったと感じている。

7 次年度への改善策

【学習指導】 新学習指導要領の実施に向け、本校教育の在り方について、中・長期的な視点に立って検討する。また、学習環境の充実については、全教員が協働して指導に当たることができるよう工夫するとともに、体験入学や授業公開の方法等についても、効果を検証し改善を行う。さらに、家庭との連携を密にし、学校・家庭間の連絡等を徹底させる。

【生徒安全体育】 「基本的生活習慣の確立」をさらに推し進める。命を大切に安全教育を徹底する。規範意識を向上させ、豊かな人間関係を構築できるような取り組みを行う。

【教育相談】 生徒一人ひとりのきめ細かな状況把握と的確で迅速な対応を図るために、教員間の情報交換をより充実させる。保護者との連携を深めるため、定期的に「たより」を発行し全体への情報提供を充実させる。

【進路指導】 キャリア教育の推進のため、総合的な学習の時間を活用し、3年間通じて取り組んでいく。進路実現に向けて全教職員が連携をとり、基礎学力の向上、マナー指導を充実させる。また、進路情報提供の推進のため、進路指導室の活用、個人面談の充実を今後も一層行っていく。

【業務改善】 教職員の連携をさらに良くし、業務量の均等化を図るべく改善を行う。特に各校務分掌の分担業務や人員配置にも再検討を加え、教職員一人ひとりの能力や適正を見極めながら、配置するよう努めたい。

A: 優れている・・・教職員の取組が優れていると認められる状況  
C: 概ねよい・・・教職員の取組が概ね行われていると認められる状況

B: よい・・・教職員の取組がよいと認められる状況  
D: 要改善・・・教職員の取組に対して改善が必要な状況